

令和7年度第9回 感染症発生動向調査協議会

令和7年12月17日

月番：加藤達雄

1 前月の感染症発生動向について（2025年第45週～48週・11月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は、10才代以上のすべての年代から報告があり。前年同時期の累計と比較して、結核、潜在性結核感染症ともに98.9%でほぼ同等であるが、前々年同時期と比較すると結核が109.8%、潜在性結核感染症が138.8%と増加している。
- ・腸管出血性大腸菌感染症は3例の報告があった（0抗原 2例はその他、1例が不明）。
- ・つつが虫病は、本年累計は9例のうち6例が11月に報告され、秋の流行期である。
- ・日本紅斑熱が1例報告あり、本年累計6例と増加している。
- ・レジオネラ症は、3例の報告があり、本年累計は前年比156.8%と増加している。
- ・梅毒は8例の報告があり、女性は20才台のみで、男性は0才代、20才代、50才代、60才代の報告があった、本年累計は、前年度比133.8%と増加している。
- ・百日咳は幅広い年代から41例の報告があった。本年累計は、前年比10922.2%と著増している。

<定点把握対象疾患>

- ・インフルエンザは、県内全域で45週から増加が続き、対前月比1369.6%と急増している。
- ・急性呼吸器感染症は、45週から増加が続いている。
- ・感染性胃腸炎は、前月比113.5%と増加している、特に中濃地区で48週に急増している。

2 検討すべき課題

- ・日本紅斑熱の報告数増加
- ・インフルエンザの流行

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・成人のRSウイルスワクチンに関する見解（2025年12月9日 一般社団法人日本感染症学会 一般社団法人日本呼吸器学会 日本ワクチン学会）

<検討結果>